

教師と生徒の人的営みを重視し、「感謝」の心を育む教育活動

～Q-Uを活かした学級作り～

郡山市立富田中学校 教頭 山田 弘

1 研究の趣旨

「学校が好き、友達が好き、先生が好き、そして・・・自分が好き」をテーマに掲げ、教師と生徒、生徒同士のよりよい人間関係の構築に努めたいと考えた。どの生徒にも安心できる学校・学級作りを目指すことが、教育活動の原点と考え、そのような環境を構築することで一人一人に感謝する心を育むことができ、持っている力を良いことに発揮できると考えた。

そこで、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

①Q-Uにより学級の実態を客観的に把握し、②それぞれの学級の課題に応じた手立てを、③学級担任を軸に、教科担任を含めた全教員が組織的に取り組むことにより、どの生徒も安心して思う存分学べる学級作り・学校作りができるであろう。

2 研究の概要

全学級において、研究実践の事前（5月）と事後（10月）にQ-U検査を実施し、よりよい人間関係に向けての学級作りに向けて、各学級の実態に応じた研究・実践を行った。

- (1) 年3回、Q-U検査における専門家（都留文科大学特任教授 品田笑子先生）による講演や指導により、校内モデル学級を使い、主題に迫る効果的な手立てを考えた。
- (2) 全教師で第1回Q-U検査の結果及び第1回研究授業・第2回全体研修会の研修内容を生かして、授業実践を行った。
- (3) 各学年でモデル学級を選び、検査結果をふまえて現在の学級ならびに生徒の実態について共通理解を図ると共に、学年全教員で共通実践事項を確認し実践した。
- (4) 2学期には、1学期に行った全教員での授業実践を受けて、学級担任が中心となり全学級で人間関係作りや学級作りに取り組んだ。各学級毎に、検査結果から見えた課題を解決すべく具体的な手立てを講じ、道徳や学級活動をはじめとして係活動や日常の生活指導の中で人間関係作りや学級作りの実践に取り組んだ。
- (5) 各学年のモデル学級についての実践事項の確認と、2回分のQ-U検査結果を見比べて、その変化に着目しながら今後の指導の手立てについて話し合い、今後の課題を明確にし、実践を行った。

3 成果と今後の課題

Q-Uを活かした実践で、教師の生徒理解に対する姿勢と教師間の情報共有に深まりができ、結果から、何を、いつ、誰がどのように実践をしていくのかの方向性を明確にすることができた。その結果、組織力を活かした具体的対応と実践ができたことが大きな成果である。

今後はQ-Uの活用研究をさらに深め、より良い人間関係を中心とした環境の中で、どの子も思う存分学べるように、仲間と学ぶ楽しさが実感できる授業を通して心が育ち、さらには学力の向上が図れる指導や手立てを実践していきたい。